平成 26 年度 地域志向教育研究費助成 成果報告書

奈良県立大学生の視点を活用した高知県嶺北地域を目的地とする旅行商品開発

奈良県立大学 地域創造学部
准教授　千住 一

Ⅰ 教育研究の概要

1. 教育研究の目的

本教育研究の目的は、平成 25 年度から奈良県立大学(以下、本学)が包括的な連携協定を締結している高知県嶺北地域の団体「嶺北地域観光・交流推進協議会」(以下、協議会)と本学の学生有志が協働し、嶺北地域を目的地としたモニターツアーを企画、運営、実施するというプロジェクトを対象とし、その過程で得られる教育的効果についての考察を行うことにある。

高知県嶺北地域は、県北部に位置する大川村、大豊町、土佐町、本山町の 1 村 3 町から構成され、自然資源、文化資源を問わず多様な観光資源を有する。協議会は、「嶺北地域の資源を活用し、観光振興と交流人口拡大の取組を推進することにより、嶺北地域の活性化を図ること」[1]を目的としており[2]、観光学を含めた地域創造学に取り組んでいる本学学生との接点は多い。

2. 教育研究の体制

本教育研究におけるプロジェクトでは、平成 26 年内に 1 回のモニターツアーを実施することを目指して一連の活動を行ったが、本教育研究を実施するにあたって、研究代表者を中心に、本学学生有志を研究協力者とする以下のような体制を整えた。

・研究代表者

奈良県立大学 地域創造学部 准教授 千住 一

・研究協力者

奈良県立大学 地域創造学部 3 回生 5 名

近藤 瞭太、谷澤 康之、二階 智美、野原 早苗、早川 千晶

---

[1] 「嶺北地域観光・交流推進協議会規約」第 2 条。

[2] 協議会は、本山町、大豊町、土佐町、大川村、本山町観光協会、大豊町観光開発協会、土佐さめうら観光協会、大川村ふるさとむら公社、高知県立嶺北高等学校、ゆとりすとパークおおとよ、嶺北地域 3 商工会(土佐地区商工会、本山町商工会、大豊町商工会)の代表、高知県から構成される。「嶺北地域観光・交流推進協議会規約」第 4 条。

奈良県立大学 地域創造学部 1回生13名

四十田 紫乃、秋元 優介、猪井 綾子、奥田 彩夏、堺 香菜子、鈴木 実織、清野 紫、水流 萌里奈、中井 寛浩、中野 慶太、橋崎 紗依、丸山 晏奈、行實 綾子

3. 教育研究のスケジュール

先述のとおり、本教育研究におけるプロジェクトは、嶺北地域を目的地とするモニターツアーの企画、運営、実施を活動の中心に据えているため、嶺北地域を実際に訪れて協議会との打ち合わせ、事前調査、フィールドワークを複数回実施するとともに、本学内でモニターツアーの企画、運営に関するディスカッションを頻繁に行った。

また、モニターツアー実施後は、モニターツアーで得ることのできた知見と解決すべき問題点に関するプレゼンテーションを嶺北地域で開催することにより、プロジェクトの成果を嶺北地域にフィードバックするとともに、協議会ならびに嶺北地域住民の方々と意見交換を行う機会を得た。

本学内で開催したすべてのディスカッションの詳細を記載すると極めて煩雑になるため、嶺北地域において実施した協議会との打ち合わせ、事前調査、フィールドワーク、モニターツアー、プレゼンテーション、意見交換に限定して各実施スケジュールを示すならば、以下のとおりとなる。

・平成26年7月19日～20日

研究協力者3名(3回生2名、1回生1名[3])が嶺北地域を訪問し、協議会と打ち合わせ、事前調査を実施。

・平成26年8月21日～22日

研究協力者6名(3回生1名、1回生5名[4])が嶺北地域を訪問し、協議会との打ち合わせ、事前調査、フィールドワークを実施。

・平成26年9月13日～14日

研究協力者5名(3回生1名、1回生4名[5])が嶺北地域を訪問し、協議会との打ち合わせ、事前調査、フィールドワークを実施。

・平成26年11月26日～27日

嶺北地域を目的地としたモニターツアーを実施し、研究協力者4名(3回生1名、1回生3名[6])引率のもと、モニターツアー参加者11名(すべて本学学生)が嶺北地域を訪問。

---

[3] 二階、野原、秋元の3名。
[4] 二階、秋元、猪井、中井、中野、橋崎の6名。
[5] 谷澤、堺、清野、水流、行實の5名。
[6] 二階、秋元、中野、橋崎の4名。

・平成 27 年 1 月 16 日

研究協力者 4 名(3 回生 1 名、1 回生 4 名[7])が嶺北地域を訪問し、プレゼンテーションおよび意見交換を実施。

Ⅱ 教育研究の取り組み

ここでは、先に記した計 5 回にわたる嶺北地域訪問において実施した協議会との打ち合わせ、事前調査、フィールドワーク、モニターツアー、プレゼンテーション、意見交換の詳細について述べる。

1. 平成 26 年 7 月 19 日～20 日

まず 19 日の行程を示すと、13：00 大杉駅、13：40 棚田、14：15 土佐町役場、14：30 早明浦ダム、15：00 さめうら荘、17：45 白滝の里をそれぞれ訪問、見学し、19 日は白滝の里に宿泊した。次に 20 日の行程であるが、9：30 から大座礼山への登山を開始し、11：00 に頂上着、13：15 に下山した後は、14：30 に道の駅土佐さめうら、15：30 に田んぼアートをそれぞれ訪問、見学し、大杉駅から帰途についた。これらの訪問、見学先は、モニターツアーのひとつの柱として想定している「自然コース」における立ち寄り先候補である。

協議会との打ち合わせは、19 日のさめうら荘において行われ、協議会からは土佐町役場の関係者 2 名が出席した。打ち合わせでは、モニターツアー実施時における協議会および研究協力者の役割分担、雨天となった場合の代替訪問先、昼食や軽食の有無および内容、モニターツアーへの最大参加人数および最小参加人数、具体的な実施スケジュール、嶺北地域内の移動手段などについての確認を行うとともに、より具体的なモニターツアーの内容および行程、モニターツアーの予算、モニターツアー中に実施を予定しているワークショップの内容など、今後に向けて解決すべきいくつかの問題点が指摘された。

2. 平成 26 年 8 月 21 日～22 日

本訪問の主な目的は、モニターツアーで採用が予定されている嶺北地域における一般家庭への「民泊」を、研究協力者が実際に体験することにより、その利点および問題点を明らかにすることにある。

嶺北地域を訪問した研究協力者 6 名は、ふたつの家庭に分かれて民泊を実施した。第一の家庭では、ピザ作りや焼き芋作りといった料理体験のほか、野菜の収穫を手伝ったりしながら、受け入れ家庭の方々との交流を深めた。第二の家庭では、庭木の剪定や草刈り機を使用した除草作業などを含めた「農山村暮らし体験」を行ったほか、受け入れ家庭の方々と夕食作りを一緒に行うことにより、交流を深めた。

また、民泊終了後は、各研究協力者が苔玉作りやピザ作りを体験したり、棚田、神社、

[7] 二階、秋元、猪井、鈴木の 4 名。

酒造工場を見学したりすることにより、嶺北地域への理解をさらに深めるためのフィールドワークを行った。その他、行程には大豊町、土佐町、本山町の関係者が同行し、適宜、研究協力者とモニターツアー実施に関する打ち合わせを行った。

この訪問では、民泊において展開される嶺北地域の住民の方々との会話や食事、共同作業や触れあいなどといった交流が、モニターツアーの大きな「売り」になり得ることが強く認識された一方で、民泊をする際に各自で持参すべき持ち物、各家庭での滞在時間を増やすための工夫、民泊をより意義深いものにするための仕掛け作りなど、今後取り組むべき多くの課題が明らかになった。

3. 平成 26 年 9 月 13 日～14 日

本訪問の主な目的は、モニターツアーのひとつの柱として想定している「自然コース」のより詳細な事前調査ならびに関連する場所へのフィールドワークを実施することにある。

嶺北地域を訪問した研究協力者 5 名は、13 日に棚田、早明浦ダム、さめうら荘などを訪れて嶺北地域への理解をさらに深めるためのフィールドワークを行った後、宿泊先である白滝の里に到着した。14 日は、大座礼山登山を実施し、頂上で昼食をとった後に下山、米米ハートや道の駅土佐さめうらに立ち寄ってから嶺北地域を出発した。その他、行程には高知県および土佐町の関係者が同行し、適宜、研究協力者とモニターツアー実施に関する打ち合わせを行った。

この訪問では、登山の過程で触れることのできる自然の雄大さや白滝の里で体験した星空の美しさ、米米ハートで販売されている嶺北地域産の米粉を利用したパンの美味しさなどを強く認識することができた。他方、棚田や早明浦ダムに関する予備知識を事前に学習できる機会の必要性や、大座礼山登山に際して必要な装備、服装、携行品などのほか、登山に際して要求される体力の指標を事前に確認することの重要性などが、今後、実際にモニターツアーへの参加者を募集していく上で取り組むべき課題として認識された。

4. 平成 26 年 11 月 26 日～27 日

嶺北地域における一般家庭への「民泊」を軸としたモニターツアーを実施した。26 日の 8：00 に、研究協力者引率のもと近鉄奈良駅を貸し切りバスで出発した一行は、13：00 に大豊町役場に到着、その後、モニターツアー参加者 11 名は 3 つの家庭に分泊した。各家庭では、各種アクティビティや作業体験などを通じて、嶺北地域の住民の方々との交流を持った。

27 日は、11：00 に各家庭を出発した後、本山町各所を見学してから本山町プラチナセンターにおいて嶺北地域の住民の方々との交流会を開催した。交流会終了後は道の駅土佐さめうらに立ち寄ってから嶺北地域を 16：30 に出発、22：00 に近鉄奈良駅に到着し、モニターツアーを終了した。

モニターツアーについては、ツアーのテーマである嶺北地域の住民の方々との交流が順調に達成されたため、おおむね成功裏に終了したと評価できるが、モニターツアー参加者に対して実施するアンケートの準備が遅れたこと、交流会の準備に手間取ったこと、27 日の昼食の手配に関して行き違いがあったことなど、モニターツアー運営面での反省点がいくつか散見された。

5. 平成 27 年 1 月 16 日

本訪問では、本教育研究におけるプロジェクトの締めくくりとして、平成 26 年 11 月に実施したモニターツアーに関する成果および課題についてのプレゼンテーションを行うとともに、協議会ならびに嶺北地域住民の方々との意見交換を行った。

プレゼンテーションには 16 名の参加があり、研究協力者 4 名は、本教育研究におけるプロジェクトの概要、これまでの活動の概要、平成 26 年度における活動の概要、平成 26 年 7 月、8 月、9 月に実施した事前調査ならびにフィールドワークの詳細、各事前調査ならびにフィールドワークの成果を踏まえたモニターツアーの造成プロセスなどについて説明した後、11 月に実施したモニターツアーの成果ならびに課題、観光地としての嶺北地域が有している可能性と問題点についてのプレゼンテーションを行った。

プレゼンテーションに引き続いて開催された意見交換には 13 名の参加があり、4 つのグループに分かれて意見交換を実施した[8]。意見交換では、1 回きりの訪問では意味がないので繰り返し嶺北地域を訪問できるような機会を作り出す工夫が必要だろう、嶺北地域内の移動に際してはコミュニティバスを利用するという手もあったのではないか、民泊を嶺北地域の「売り」にするならば今後は民泊を受け入れることができる家庭の数を増やす必要があるだろう、嶺北地域全体に関する情報をより効果的に発信できる方法を本学に考えて欲しい、次の機会には是非とも「自然コース」を中心としたモニターツアーを実施して欲しい[9]、モニターツアーの実施期間をもう少し長くすれば嶺北地域住民とのより深い交流が可能になったのではないか、嶺北地域の特産物を活用した食事や土産物の開発が必要なのではないか、などといったやりとりが行われた。

Ⅲ 教育研究の成果

本教育研究における一連の活動を通じて獲得することのできた成果について、本学が現在取り組んでいる学修カリキュラムおよび教育制度改革と関連づけながら、ふたつの視点から以下にまとめたい。

第一に、フィールドワーク科目への寄与である。学生の自主性ならびに独自性にもとづき、学外での学習実績に応じて単位を認定するフィールドワーク科目の運用が平成 27 年度から開始されるが、本教育研究におけるプロジェクトを通じた取り組みは、こうしたフィールドワーク科目のひとつの典型的なモデルになり得る。つまり、特定の問題設定を各学生が個別に理解、解釈し、それにもとづいて学外においてフィールドワークを繰り返し実施し、そこで得られた学習成果をフィールド社会に対して還元する、という一連のプロセスは、本学が想定しているフィールドワーク科目の理想的な姿である。

第二に、コモンズ型教育への寄与である。地域創造学を修めるにあたり、観光創造、都市文化、コミュニティデザイン、地域経済の各コモンズに分かれ、少人数制のコモンズゼ

[8] 研究協力者は、各グループに 1 名参加した。

[9]「自然コース」を中心としたモニターツアーを平成 26 年中に実施することも検討したが、積雪を伴う気候条件を踏まえ、実施を断念したという経緯がある。

ミを中心とした専門的な教育を実施するというのがコモンズ型教育の目指すところであるが、そこでは、強力なリーダーシップならびに高度な社会性を有した学生の育成が求められている。設定された学習課題に積極的に取り組み、他の学生の進度に目配りしながらグループ作業を進めていくという意識が、本教育研究における一連の取り組みのなかで一定程度醸成されたと考えており、その意味では、本教育研究に研究協力者として参加した１回生の多くが、将来的に各所属コモンズにおける中心的な存在として活躍するものと思われる。

最後になったが、本教育研究におけるプロジェクトに対して多大な援助を提供して下さった協議会の皆様に厚く御礼を申し上げたい。特に、本教育研究の趣旨をご理解下さり、研究協力者の度重なる嶺北地域訪問や個別の問い合わせに丁寧かつ迅速に対応して下さった、土佐町役場の森愛里さんには深く感謝する次第である。そして何よりも、本教育研究での取り組みを通じて本学学生と関わって下さったすべての嶺北地域の住民の皆様に、心から感謝いたします。どうもありがとうございました。

資料

平成 26 年 8 月 21 日～22 日における嶺北地域訪問の様子

平成 26 年 9 月 13 日～14 日における嶺北地域訪問の様子

平成 26 年 11 月 26 日～27 日における嶺北地域訪問の様子